

チェコにおける私立大学の成立と展開

石倉 瑞恵

Formation and Development of Private Higher Education Institutions in the Czech Republic

Mizue ISHIKURA

はじめに

チェコでは教育のプライバタイゼーションが進行している。初等、中等教育では1990年から、高等教育では1999年から、続々と私学が設立されている。私立大学は年々規模を拡大し、チェコ高等教育に大きなインパクトを与えている。

チェコは大学の歴史ある国である。そして今、14世紀から続いた（公立）大学一辺倒の歴史が流れを変え、高等教育そのものが変容しつつある。筆者は、私立大学導入の過程には、二つの拮抗する力が働いていたと考える。第一は、カレル大学等の伝統的制度へ執着する保守的な力である。私立大学設置認可後、私立大学に対する社会的批判が生まれたことに表れている¹⁾。第二は、50年間の社会主義政権による抑圧への反動としての自由化への憧れである。チェコ人は、読書好きの民族と言われている。19世紀チェコの初等教育普及率、識字率は、ヨーロッパ諸国と比較して、都市部、農村部の両者において高かったことが明らかにされている²⁾。学びへの意欲の高い人々が、社会主義50年の長きにわたり学問の自由を阻まれてきたのであるから、「自由」への渴望度は非常に強かった。大学の自治、学問の自由への希求、それは第一の力をはるかにしのいで、高等教育のプライバタイゼーションを浸透させる要因として働いたのではないだろうか。

チェコ高等教育は、公立大学の伝統を覆し、ポスト社会主義からプライバタイゼーションへと、急進的変革を成し遂げてきた。チェコ私立大学発展の経緯を探ることは、私立大学がそのあり方を模索している日本の高等教育にも大いなる示唆を与えると考える。もちろん、私立大学は公立大学とは異なる特質をもつために、その資質が問題とされることもある。本論文は、チェコ私立大学研究の第一歩として、私立大学が誕生し、チェコ高等教育に定着する過程を分析することを通し、私立大学の独自性を明らかにしようと試みる。

最初に、1998年高等教育法とその後の改正に基づくチェコ大学の構造改革について考察し、高等教育法における私立大学の定義を明らかにする。さらに、私立大学定着の様相を大学数、学生数の変動等により分析する。私立大学の運営を支え、教育を特色づけるパートナーとの関係性を明らかにした後、国際性の高い私立大学に焦点化して教育上の特質を分析する。これらの考察と分析を通して、チェコ高等教育における私立大学の発展可能性の一端を提示する。

1 高等教育法改正と大学の構造改革

(1) 1998年高等教育法と私立大学の誕生

市民革命の翌年、チェコ大学再生の要となる1990年高等教育法 (zákon o vysokých školách) が制定された。社会主義期に喪失した学問の自由と大学の自治を回復することがねらいとされたこの法律では、大学評議会を中心とする民主的管理・運営組織に関する規定が中心となり、わずかに全45条の短い法律となった。革命後数ヶ月で制定された「速成」高等教育法のために詳細な規定まで含めることができず、施行後間もなく次の高等教育法制定が検討事項となった。

資本主義社会、国際化時代に呼応する内容を盛り込んだ1998年高等教育法は、全15章109条 (2009年改正版では全13章109条) からなる。大学・学部の組織、中央省庁の役割、課程の定義、学生の受け入れと入学試験、生涯学習、大学教員、大学の運営、課程認定等、細部にわたっての規定が新たに設けられた。

新高等教育法は、それまでの高等教育組織を根本的に変革する3つの改正点を含んでいた。第一に、すべての大学は法人組織として規定され、従来の国立 (státní: 英語のstate) 大学が、公立 (veřejná: 英語のpublic) 大学と称されるようになったことである。第二に、私立大学の設置に関する規定が設けられたこと、第三に、それまでの大学卒業資格であった「修士」及び修士課程 (4～6年間) よりも短期間で取得できる「学士」及び学士課程 (3～4年間) の規定が設けられたことである。

「私立大学」、「学士課程」という伝統を覆す規定が設けられたのには次のような背景がある。旧来の国立大学は、社会主義期に設立されたものを含め24大学であった。市民革命後、これらの国立大学は経済学部や経営学部等の学部を増設し、新しい時代に適応する大学へと変化を遂げたものの、急速な資本主義化、国際化にはもはや国立大学のみでは対応できなくなった。さらに、リスボン宣言 (1997年)、ソルボンヌ宣言 (1998年) に表明されたように、ヨーロッパ各国が学士課程を導入し、学士をヨーロッパ共通の大学卒業資格とする国際動向があった。チェコが名実ともにヨーロッパの仲間入りを果たすために、既存の国立大学における学士課程の普及を推進するとともに、学士課程を中心とする私立大学を設けることが必要となったのである。

その後、チェコはボローニャ宣言 (1999年) に署名し、「欧州高等教育圏」としての大学改革を目指す。1998年高等教育法は時代の整合性を高めるために改正を重ね、2009年5月までに20回の改正を行った。とりわけ高等教育の構造的変革、ひいては私立大学の定義に関わる改正を含む2001年改正、2006年改正の概要は次の通りである。

(2) 2001年改正と学士課程の定着

1999年ボローニャ宣言の2年後の改正となる2001年高等教育法改正は、ボローニャ宣言の達成目標である3つの課程、すなわち「学士」(bakalář)、「修士」(magistr)、「博士」(doktor) 課程の定着を受けて、学士課程を正規の第一課程とすることを定めた。1998年高等教育法は「修士課程の期間は4年から最高6年間である。修士課程は学士課程の上に設置することもできる。その場合、修士課程は2年から3年間とする」(第5章 § 46 (2)) として、修士課程を第一課程と定め、学士課程の方は設置することも可能な任意の課程として位置づけている。ところが、2001年改正では「修士課程は学士課程の上に設置する。修士課程の期間は1年から3年間である。なお、課程の特色上、学士課程の上に設置することができないのであれば、(学士課程のない) 修士課程として4年から6年間の課程も認められる。」となり、学士課程を第一課程、修士課

程を第二課程として規定しているのである。

現在、この規定を満たすべく全大学において改革が進行中であり、4～6年制修士課程は、学士課程3年間プラス修士課程1～3年間の制度へと移行している。1999/00年度には、大学生総数に占める4～6年制修士課程学生の割合は65%であったが、2007/08年度には20%にまで低下した。逆に、第二課程としての1～3年制修士課程の学生の割合は、1999/00年度の10%未満から2007/08年度の16%にまで上昇した。さらに、第一課程である学士課程の学生の割合は17%から64%にまで上昇した³⁾。2008年では、全国の大学における学士課程数は665、第二課程としての修士課程数は548、従来の第一課程としての修士課程のみである課程数は235、課程の性質上、今後も従来のように第一課程としての修士課程にとどまるとみなされている課程数は28である⁴⁾。すなわち、これらの数字には、学士課程、修士課程、博士課程という課程サイクルが定着していること、大学の第一課程として学士課程が主流になりつつあることが示されている。

(3) 2006年改正と国際基準の導入

2006年高等教育法改正では、公立大学において協定を取り交した外国大学との共同による課程（ジョイント課程）を認める規定（第5章§47a）が新たに設けられた。「学士、修士、博士課程は、その課程の内容が該当課程の内容に適しているのであれば、外国の大学との協力により課程を設置することができる。」その教育課程では、チェコ大学の学位、さらに「相手国の法律に従った外国大学の学位を授与すること」もできる。すなわち、チェコ及び協定を結んだ国で有効となる学位を取得できるジョイント学位課程の設置が可能となった⁵⁾。同年には、教育・青年・スポーツ省（Ministerstvo školství, mládeže a tělovýchovy）の専門機関である認定委員会（akreditační komise）により、ジョイント学位課程を認定する上での基準と認定手続きが定められ、公立大学においても、チェコ認定委員会とパートナー国の該当機関における認定を経て、ジョイント学位課程を開設できるようになった。

ジョイント学位導入の意図は、チェコ大学の課程と学位がヨーロッパ諸国に比するものであることを示し、ヨーロッパ諸国及び各国の学生を受け入れる枠組みを固めることにある。すなわち、チェコ高等教育が国際基準を満たしていることを証明することにある。現高等教育法は、チェコ大学が国際的な学術機関として再生する基盤となっている。

2 高等教育法における私立大学の定義

(1) 私立大学の類型と課程

1998年高等教育法では、第1章総則において、高等教育機関は、総合大学型（univerzitní）と非総合大学型（neuniverzitní）に分類されること、総合大学型は、学士、修士、博士課程をもつ大学、非総合大学型は学士課程を主として修士課程をも設置できる機関であり、博士課程を設置できない大学であると定められている⁶⁾。続く第2章は公立大学の規定、第3章において私立大学の規定となる。この第1章から第3章までは現在も同じ構成であり、私立大学は総合大学型高等教育機関となりうる可能性も持するものとして規定されたと考えられる。

しかし、新設私立大学は、全て学士課程のみの非総合大学型として設立された。定着に伴い修士課程を設置し、現在では、ほとんどの私立大学が学士課程と修士課程を提供している。さらに、2007年にはJ.A.コメンスキー大学と国際・公共関係大学が博士課程を設置し、私立大学で初の総合大学型へと昇格した。すなわち、私立大学には、公立大学と同様、総合大学型と非

総合大学型の両者の型が存在する⁷⁾。

(2) 私立大学の設置者と設置基準

私立大学を設置できるのは、1998年高等教育法によれば「チェコ共和国に籍のある法人」(第2章§39)であったが、その後の改正により、現在「EU加盟国のいずれかの国において事業所本部を構える法人、あるいはEU加盟国の法令に従って事業を展開している法人が私立大学を運営することができる」ようになった。チェコの大学が欧州高等教育圏構想に近づくために、国際的な課程や学位を提供する大学を新設することを促進するねらいがあると考えられる。例えば、神学系私立大学である国際バプティスト神学セミナーの設置者は、スイスに拠点校を構える大学であり、設置者が「EU加盟国のいずれかの国において事業本部を構える法人」にあたる。

チェコの後期中等教育機関が私立大学の設置者になっている場合もある。チェコにおける後期中等教育機関は、進学志向の4年制ギムナジウム、職業志向の中等学校⁸⁾であり、それぞれに公立と私立が存在する。例えば、南東国境付近の都市クノビツェにある私立大学、ヨーロッパ・ポリテクニク・インスチテュートは、ギムナジウム、中等専門学校、職業学校を母体とする総合私立学園となっている。

私立大学設置者は、教育・青年・スポーツ省の認定委員会による審査を経て課程認定を受ける。認定委員は、チェコの公立大学教員12名、チェコ科学アカデミー研究員5名、外国大学教員3名、その他の専門職1名からなると定められている。現在、12名の公立大学教員の中ではカレル大学教員が最多数であり、4名を占めている。外国大学の教員へは、ドイツの教員2名、スロバキアの教員1名、その他の専門職へは、チェコ経済を支える自動車メーカー、シュコダ社から1名が選出されている⁹⁾。

課程認定を受けるためには、「教育、科学、研究、開発、イノベーション、学芸、その他創造活動に関する長期計画」、「財源、動産、人材、情報の保障」、「教育課程」、「組織、活動、教員に関する学事規定」を書式に記入して提出する¹⁰⁾。実際には非総合大学型が多い私立大学であるが、研究機能を有することは必須となっている¹¹⁾。

高等教育法規上、私立大学は、課程、学位、研究と教育において公立大学と同じレベルを達成する可能性をもつ大学とみなされる。しかし、設置者の国際性、多様性を認め、公立大学よりも国際性、実学性の強い大学となることが期待されている。

3 私立大学の定着

(1) 私立大学の拡大と学生の特徴

私立大学は、1999年には6大学であったが、2003年には35大学、2008年には45大学にまで増加した¹²⁾。一方で、2003年から2008年にかけての私立大学数の増加は10大学であるが、この間の学生数の伸びは約4倍にもなる。これは、学生数の増加が、大学数の増加のみならず、各大学規模の拡大に支えられているということを示している。しかし、学生数を公立大学と比してみると、公立大学学生総数は303,731名、私立大学学生総数は40,939名(2008年)である¹³⁾。カレル大学には45,758名の学生が在籍しているので、カレル大学学生数だけでも私立大学学生総数を優に超えることになる。私立大学は小規模大学なのである。なお、私立大学の中で最大の学生数を持つのは、J.A.コメンスキー大学の6,782名である。一方で、最小規模の大学は、地域開発大学の24名である¹⁴⁾。

私立大学では、留学生の割合が高い。公立、私立を含むチェコ大学全体における留学生の

割合は、学生総数の5.0%であるが、私立大学のみでは12.4%と2倍以上の高さとなる¹⁵⁾。留学生の割合が高い私立大学、公立大学学部を見てみると、1位が国際バプティスト神学セミナー(92.5%)、2位プラハ・ニューヨーク大学(51.2%)、3位アングロ・アメリカン大学(39.5%)、4位金融大学(28.3%)、6位J.A.コメンスキー大学(25.4%)、7位観光・ホテル・温泉業大学(23.5%)と上位10校中の6ポジションを私立大学が占めている¹⁶⁾。

公立大学で留学生数が多いのは、5位のカレル大学第一医学部(27.1%)、8位のパラツキー大学医学部(22.5%)等、医学部である¹⁷⁾。これらの大学学部では、スラブ言語圏からの留学生が多い。それは、教授用語がチェコ語であることが多く、スラブ言語圏外からの留学は難しいからである。また、1992年に分離独立したスロバキアからの学生が、より良い教育機会を求めてチェコに留学するからでもある。

一方で、私立大学、特に留学生の割合が高い上位の私立大学においては、留学生の出身国は多様である。その理由として、第一に教授用語に英語を取り入れている大学があるという点、第二に入学方法がクリアであるという点を挙げることができる。多くの場合、入学のためには、英語による入学願書、大学の要求するTOEFLスコア・レポートを提出すること、志望動機に関するレポートやインタビュー(英語)をこなすことが条件となる。私立大学では、留学生に対する入学機会が開かれていると言えよう。

(2) 実学志向の大学としての定着

私立財政経営大学学長は、2004年の創立5周年の際、大学の創設を回顧して次のように述べている。「大学を組織するにあたり、作業部会を結成した。その任務は、設置する専攻を検討することであった。まず、チェコで影響力をもつ公立大学の専攻を分析した。そして、経済、経営分野の教育需要を調査し、需要の高い専攻及びその内容について提案を行った¹⁸⁾。」

各私立大学が設立時に分析したであろう「公立大学の専攻」には、次のような特色があった。14世紀から20世紀初頭までに設立された伝統ある公立大学は、神・法・医・哲学部を主としており、20世紀後半に設立された公立大学、いわゆる社会主義専門大学は、電子、機械、土木等の技術系学部と農業系学部を主としていた。市民革命後、すべての大学が総合大学に昇格する過程で、社会主義専門大学は、経済・経営系学部や人文学部を増設した。しかし、公立大学では学問志向の専攻が多く、実社会で有用となる実学志向の経済・経営系学部が不足していた。

結果的に、私立大学には、経済・経営分野を専門とする大学が多くなった。2008年では、私立大学の専門分野は、経済・経営53%、法律8%、情報科学4%、芸術8%、環境2%、人文・神学・社会学・教育20%、健康5%であり、経済・経営分野が半数を超えている¹⁹⁾。経済・経営分野について、各大学の専攻を具体的に見ていくと、「金融業、保険業、地方行政経営、社会事務経営、企業経済、企業会計、財務管理マーケティング、観光・旅行・温泉業」等、公立大学の経済・経営分野とは異なる実学志向の専門である²⁰⁾。

実際に、私立大学ではキャリア・オフィス・ボードも充実しており、掲示板には専攻での学びを生かすことのできる職業への窓口となる「就職情報」が多数はり出されている。チェコでは、社会主義期以来、大学での学びと卒業資格は、必ずしもふさわしい職業に結び付くというわけではなかった²¹⁾。私立大学は、大学での専門的な学びと職業との関連性を開拓し、チェコ高等教育の新しい発展方向性を示していると考えられる。又、「学士」は、欧州高等教育圏における共通の卒業資格、及びその圏内での「労働」を得るための資格となるべきものである。このような実学志向の学士課程をもつ私立大学に留学生が関心を寄せることを考えると、私立

大学は、チェコ高等教育が欧州高等教育圏構想に近づくことに貢献していると言えよう。

(3) 各地域における定着

私立大学は、初期にはプラハを中心として設立されたが、近年では今まで公立大学のなかった国境付近の都市にも設立される傾向がある。そのため、公立大学は13都市に分布しているのに対し、私立大学の分布は16都市にも及んでいる²²⁾。

チェコの大学といえば、カレル大学のように中世の街並みに学部が点在している大学が代表的である。又、18世紀に設立されたチェコ工科大学や、カレル大学の中でも20世紀に設立された医学部などにはキャンパスをもつ大学もある。私立大学は、その立地がプラハ都心部か、地方かにより外観を異にする。プラハ都心部の私立大学は、いくつかの店舗が入っている建物のワンフロアを改装しているような「タウン型」であることが多い。例えば、プラハのアングロ・アメリカン大学は、マルタ大使館と建物を共有しており、建物の入り口には「マルタ」の国旗が掲げられている。中庭を取り巻く回廊式のフロアは、1階が講義室、2階が受付と講義室、3階が講義室と教員研究室となっている。

プラハ郊外、さらに国境近くの私立大学となると、ゆとりのある敷地に近代的校舎を建て、小キャンパス型の大学を構えていたり、新築とはいかないまでも、スポンサー提供の建物を活用して都心部よりは広い学舎をもっていたりする。

地方の私立大学学生数も着実に増加している。クノビツェにある大学、ヨーロッパ・ポリテクニク・インスティテュートでは、学生数が65名(2003年)から1,130名(2008年)にまで増加した。ただし、地方の大学における留学生の割合はすこぶる低い²³⁾。

4 私立大学を支えるパートナー

私立大学内では公立大学とは異なった風景を目にする。学内には、数多くの経営上のパートナー(スポンサー)や多様な大学提携校のポスターが掲げられている。私立大学は、国内外に経営パートナーをもち、国外の大学とも教育・研究交流を目的としてパートナーシップを形成している。パートナーシップがどのように専攻やカリキュラムに反映され、大学を特色づけるかについて、二つの大学事例から検討する。

(1) シュコダ・オート大学 (ŠKODA AUTO Vysoká Škola) の事例

シュコダ・オート大学は、高等教育法による私立大学設置認可直後の2000年に設立された私立大学の一つである。プラハ北東部の小都市に設立され、近代的学舎を新築した小キャンパスをもつ大学である。学生数は747名(2007/08年度)²⁴⁾、設置者はチェコ最大の自動車メーカーのシュコダ・オート社である。民間企業が設立した初の私立大学である。学士課程専攻は、企業経済・経営、企業経済・通商、企業経済・財務、修士課程専攻は、企業経済・経営、多国籍企業・経理運営、多国籍企業・マーケティング、多国籍企業・法律である。ヨーロッパにおける自動車産業の危機的状況打開を目的として、経済・経営各分野に特化した専門を提供している。

経営パートナーは、設置者であるシュコダ・オート以外に、ゲーテ・インスティテュート、チャンネル・クロッシング(マスコミ業)である。この大学に特徴的なのは、卒業生の自社就職率の高さである。学士課程修了者の19%がシュコダ・オートに就職、47%が同大学の修士課程に進学する。また、修士課程修了者のうち67%がシュコダ・オートに就職している²⁵⁾。シュ

コダ・オートにおける経営エキスパートを育成することが、この大学のねらいの一つである。外国のパートナー校は、フィンランド、ドイツ、オーストリア、フランス、スペイン、アメリカ、イギリスの大学で、うちドイツとフランスの大学との提携校が多い。ドイツ、フランスとは、それぞれの国の自動車メーカーであるフォルクス・ワーゲン、アウディとのインターンシップを通じた教育協力関係もあるため、ドイツとフランスの大学との提携が重視されるものと解釈できる。

(2) ズノイモ経済大学 (Soukromá vysoká škola ekonomická Znojmo) の事例

2005年にオーストリアとの国境に近いズノイモ市に設立された大学である。2007/08年の学生数は572名²⁶⁾、設置者は個人法人で、ズノイモ市の多大な物資的援助により設立された。学士課程は、企業会計・財務管理、マーケティング・経営、計理士・税理士養成、地方行政・社会事務経営である。経営パートナーは、ズノイモ市のほか、プラハの公認会計事務所、ズノイモの企業5社、ブルノの企業1社である。「地方行政・社会事務経営」、「計理士・税理士養成」等の専攻には、経営パートナーであるズノイモ市や、公認会計事務所の意向が反映されている。地方の私立大学では、地方自治体がパートナーとなっているケースが多く²⁷⁾、その場合専攻やカリキュラムには地域性や地域の需要が反映されることもある。そして、都心から離れた地方自治体との共同設置、すなわち準「公設民営型」の私立大学設置は、地方自治体、私立大学両者にとってのメリットとなる。第一に、私立大学を設置することで、地方都市をヨーロッパにアピールすることになり、私立大学設置は一つの「町興し事業」となるからである。第二に、そのような半ば公設民営型の私立大学であるからこそ、国境に近い地方都市における大学設置が実現したと考えられるのである。

外国大学のパートナー校は、スロバキア3校、ポーランド1校、ハンガリー1校である。首都プラハとの距離よりも、ハンガリーとの距離の方が短いという地域性がパートナー校にも反映されている。2010/11年度からスタートした初の修士課程、旅行業マーケティング修士課程は、ハンガリーのパートナー校セーチェニ・イストヴァーン大学とのジョイント課程である。この課程では、東欧、中欧におけるマーケティング力を身につけることを目的とし、両大学の教員が交互に英語による授業を行っている²⁸⁾。

以上のように、私立大学の経営パートナー、外国のパートナー校がカリキュラムに影響を与えるために、私立大学は公立大学と比較して独自性豊かな教育を提供している。

5 私立大学の国際性

私立大学は、多様な設置者、パートナーシップを背景として、独自性、実学性の強い教育を提供している。同時に、私立大学は1998年高等教育法と共にスタートして以来、国際性の高い大学群となる期待を背負ってきた。私立大学の中には、ソルボンヌ宣言に謳われているように「国家的利益を越えてヨーロッパの学生の利益を考慮した」²⁹⁾教育を達成している大学もある。高等教育の魅力と競争力を高め、欧州高等教育圏の大学像に迫る試みを提供している大学である。特に、ポローニヤ宣言の具体的達成指標である「欧州の次元」³⁰⁾を実現するために、カリキュラムやプログラムの改革を進めている私立大学は少なくない。

欧州の次元とは「ヨーロッパ的内容、方向性、組織かならなるモジュール、課程、カリキュラム」、特に、パートナー校との共同で提供するモジュールや課程、カリキュラム、そしてジョイント学位を提供する課程等を充実させることとされる³¹⁾。

現在の高等教育法は、公立大学の柔軟な予算運用を認めているため³²⁾、公立大学も独自性の高いカリキュラムやプログラムを創出することが可能となった。しかしながら、規模が大きく、伝統的な縛りの強い学部の中では自由な改革に踏み切れないという理由から、公立大学では斬新なカリキュラム改革には着手できないでいる。私立大学は、そのような公立大学の欠点を「小規模性」、「国際性を創出できる様々な条件（設置者、パートナーシップ）」という強みで補い、独自性及び国際性の強いカリキュラムを開発することができる。

そこで、欧州の次元の実現に積極的であるアングロ・アメリカン大学 (Anglo-Americká vysoká škola) を例として、その教育環境、カリキュラム、インターンシップ、ジョイント学位課程から私立大学の国際性の一面を明らかにする。

①教育環境

アングロ・アメリカン大学は、ビジネス管理学科、国際関係・外交学科、人文・社会科学学科、ジャーナリズム学科、ジョン・H・カレイ法学科の5つの学科からなる。前者3つの学科は、学士課程と修士課程をもち、後者2つの学科は学士課程のみである。学生数は369名 (2008

表1 アングロ・アメリカン大学学士課程におけるカリキュラム

学科	専攻	教育目標	専門科目群
ビジネス管理	ビジネス管理	英語環境において国際的評価を得られるようなビジネス・スキルを習得する。	経済、経営、マーケティング、財政、ビジネス倫理、ストラテジー、産業心理学、人的資源、数学、情報・コンピュータ
国際関係・外交	国際関係	国際政治、経済、法律に関する知識、社会科学的研究の方法を習得する。中級レベルのフランス語を習得する。	政治、国際関係、経済、EUにおける安全平和・紛争解決・問題、社会科学研究法、マス・コミュニケーション、社会人類学、社会心理学、フランス語
人文・社会科学	政治・社会学	政治・社会問題を地域及び世界レベルで理解できる。文化理論、歴史的・心理学的洞察を用いて政治や社会を論じることができる。	政治 (チェコ、スロバキア、EU、西ヨーロッパ、中欧・東欧)、経済、マス・コミュニケーション、法律、国際関係、社会科学研究法、社会史、政治と演劇、ジェンダー
	人文・社会・文化学	統合ヨーロッパの中の中欧、チェコに関する学際的理解ができる。 <u>多文化社会における適応力、コミュニケーション能力を身に付ける。</u>	哲学、宗教、歴史、思想、法律、西ヨーロッパ・EUの政治、文化人類学、心理学、社会学、ジェンダー・スタディー、文化研究、芸術・文学 (学際的学習)
ジャーナリズム	コミュニケーション・ジャーナリズム	歴史的視点、心理学的視点から、 <u>多様な政治・社会問題を理解</u> できる。ジャーナリスティック・ライティングの技能を習得する。	政治学、社会学、経済学、心理学初歩、ライティング・スキル、レポーティング
ジョン・H・カレイ法	比較ビジネス法	国際的 (ヨーロッパ) ビジネスの場が必要とされるコモン・ローと大陸法に対する理解を深める。法律関係者としての知識、技能、分析能力を習得する。	ローマ法、EU法、国際法、ビジネス法、イスラム法、犯罪法、銀行法等様々な法律

出典：Anglo-American University, *Ready for global success?*, Praha, (2009) . 及び、2009年8月の現地調査に基づき作成。

年)、留学生数はおよそ160名である³³⁾。留学生の出身国は60カ国以上にも及ぶ。教員の出身国も多様であり、チェコ以外では、スロバキア、ロシア、アメリカ、カナダ、イギリスからの教員が多い。また、私立大学では、一般的に若い世代の教員が多い。それは、少人数指導、モジュラー・スケジューリング等の新しい教育方法に適應できるという理由からであるが³⁴⁾、この大学も例外ではなく若手教員が多い。特に学科長が若手であるのが特徴的である³⁵⁾。また、アングロ・アメリカン大学の教員は、英語が堪能な教員によって占められており、教授用語は完全に英語に、学内での会話、学生と教員との日常会話は、原則として英語に統一されている。欧州的次元を実現する多文化な環境への条件が整えられている。

②カリキュラム

表1は、それぞれの学科の学士課程のカリキュラム（教育目標と専門科目群）をまとめたものである。

「市民として³⁶⁾、そして、ビジネス、人文、社会科学、ジャーナリズム、法律、国際関係、外交分野において世界で活躍するスペシャリストとして学生を養成することがこの大学の使命である³⁷⁾」と学長が述べているように、それぞれの専攻では、国際社会で活躍する人材の育成が教育目標となっている。どの専門においても、スペシャリストの前提として国際人であることが念頭におかれるため（表1中「教育目標」列の下線部）、専門性と国際性のバランスを保つように専門科目が構成されている。

表1で示した専攻科目の他には、全学科共通科目が設定されており、2010年度春期は、「世界史、中欧におけるユダヤ人の経験、作文、コンピュータ、実存主義導入、ヨーロッパの歴史、アメリカの歴史、プラハの芸術と建築、自由、比較世界観、法律導入（法学専攻以外の学生対象）³⁸⁾」となっていた。ヨーロッパおよび国際理解の基礎となる科目の他に、プラハが世界に誇る「芸術と建築」に関する科目が設定されており、国際人としての自国理解も配慮されている。

留学生対象には、チェコ語初級の授業も開講される。例えば、2010年度春季では、月曜日と木曜日のモーニング・セッション（8：15-11：00）³⁹⁾、あるいは火曜日と水曜日のモーニング・セッションのいずれかで初級チェコ語の授業を選択できるようになっている。1週間あたりで5時間30分のチェコ語授業時間が確保され、さらに、4コマ同時開講なので少人数指導が徹底されている。

③インターンシップ

全専攻では、国際ビジネス人としての実践力を身につける機会であるとして、国際舞台におけるインターンシップが取り入れられている。大学の経営パートナーに加えて卒業生の就職先も確保され、多様なインターンシップが導入されている。私立大学は、卒業生とのつながりを保つことに力を注いでいるが、多様なインターンシップや就職先の確保も目的の一つとなっているのであろう。

例えば、ジャーナリズム学科では、リドヴェー・ノヴィニ、フロンタ・ドネス等のチェコ語新聞社のみならず、ラジオ・フリー・ヨーロッパ、ラジオ・プラグ等英語放送局やプラグ・ポスト、チェコ・ビジネス・ウィークリー、ザ・ニュー・プレゼンス等英語新聞社でのインターンシップを行っている⁴⁰⁾。

又、人文・社会科学学科では、ユニセフ、国連難民高等弁務官事務所、在プラハ大使館等国際関係組織、ラジオ・フリー・ヨーロッパ、ラジオ・プラグ等英語放送局、チェコ共和国議会、チェコ各種メディアの文化部、プラハ城管理運営等政治・文化の発信地におけるインターンシップが導入されている⁴¹⁾。

④ジョイント学位課程

ジョイント学位課程では、留学生、チェコ人学生にとって魅力となる国際有用性の高い学位と学位取得のための特色あるプログラムを提供している。例えば、ビジネス管理学科のBSBA (Bachelor of Science in Business Administration) 取得課程では、通常の学士課程とは別枠の課程で3年間履修した後、アメリカのセントラル・ミシガン大学ビジネス管理カレッジで1年間学ぶ「3+1トランスファー・プログラム」を導入している。又、同学科MBA課程では、アメリカのチャップマン大学アルジロス・ビジネス経済学科のMBAを取得することができる。この課程では、チャップマン大学の教員による授業が60%を占めている。さらに、表1に掲げたジョン・H・カレイ法学科は、イギリスのウェールズ大学比較法学学士課程であり、全ての学生がイギリスの学士を取得することとなる⁴²⁾。

以上のように、アングロ・アメリカン大学では、多様な出身国からの留学生と教員、英語を共通語とする多文化な学習環境、国際社会におけるエキスパートを育成するという共通の教育目標とそれを支える教育科目、及び国際人としての実践力を身につけるインターンシップ、そしてヨーロッパや世界の資格と対比しうる透明性の高い学位制度を導入し、欧州の次元を実現した教育を提供している。

おわりに

ポスト社会主義の時代から間もないチェコにおいて、伝統を覆して私立大学が成立、定着した過程、及びその過程において生み出された私立大学の独自性について論じた。

私立大学定着を促した大きな要因の一つは、チェコ高等教育改革が欧州高等教育圏構想を指向し始めたことであつたと考えられる。労働への共通資格としての学士、ヨーロッパ学生の利益を考慮した教育を導入するためには、伝統や大規模性という公立大学の枠組みを超えることが必要であつた。公立大学の土台を改革するのみでは、欧州高等教育圏構想は遠い道のりとなつたことであろう。

欧州高等教育圏を背景としてゼロからスタートした私立大学は、公立大学のもたざる物、すなわち、実学性、斬新な教育、学びから職業への連続性の実現を目指して、多様な設置者やパートナーシップの影響力を得た。チェコ高等教育の伝統にはない新しい高等教育を創造し、軌道に乗せることができた。すなわち、多様なパートナーシップは、各私立大学の定着のみならず、私立大学の独自性をも支えていると考えられる。

欧州高等教育圏構想と多様なパートナーシップという二つの要因は、私立大学が新しい地域における高等教育、新しい専門分野における高等教育を開拓し、新しい教育環境、新しいカリキュラムやプログラムを開発することを促した。国際色豊かな教育環境やプログラムを整備し、欧州高等教育圏の達成目標である欧州的次元を実現することも可能となつた。また、私立大学は小規模であるがゆえに、時代の流れを機敏にとらえ、時には新しいパートナーシップを得て、ただちに改革へと移すことができる。多くの私立大学では、常に改革が進行中である。

もちろん、私立大学は専門や地域によって多様であり、質的格差も大きい。公立大学との質的格差は、チェコ国内においても議論的となっている。私立大学の質的格差、及び公立大学との質的格差に焦点を当てた研究は今後の課題として残されている。さらに、本稿では、私立大学の「教育」機能に焦点を当てたが、「研究活動」も視野に入れ、私立大学を把握する必要がある。例えば、国際・公共関係大学では、2010年5月にラウンドテーブル『ヨーロッパの時代』を主催した。ボローニャ宣言の作成等に関わった専門家がパネラーとなり「ヨーロッパの

意義2020」、「EUへの経済アピール」、「EU外交」という3つのパネルを開催した。参加者には、国際・公共関係大学の学生、教員、卒業生のみならず、カレル大学学生も含まれていた⁴³⁾。私立大学の中には、国際的研究活動のセンターとして、公立大学をもひきつける求心力を持っている大学もある。教育、研究活動の両者の視点を含めて私立大学の特色を検討することもあわせて更なる研究課題としたい。

* 本研究は、平成21・22年度名古屋女子大学特別研究助成費、及び平成23年度科学研究費補助金（基盤研究C）を得て行った調査成果の一つである。

- 1) 石倉瑞恵「チェコにおける高等教育改革と私立大学の誕生」、天城勲 編『IDE—現代の高等教育』No.458, 民主教育協会・高等教育研究所, 58頁, (2004).
- 2) European Commission, *The education system in the Czech Republic 2007/08*, p.13, (2008) .
- 3) Št'astná, V., *Bologna process template for National Report : 2007-2009*, Ministerstvo školství, mládeže a tělovýchovy, pp.5-6, (2008) .
- 4) *Ibid.*
- 5) 私立大学ではジョイント学位の導入は早かった。MBA課程を導入する大学も、少数ではあるが存在していた。例えば、J.A.コメンスキー大学の「人的資源経営とEU専攻MBA」課程である。ドイツ、オーストリア、スイスの経済学修士と同等資格、ヨーロッパMBAガイドラインを満たした資格と認定されている課程である。
- 6) 総合大学型は、名称にユニヴェルジタ (univerzita) を、非総合大学型はビソカー・シュコラ (vysoká škola) を含むと規定された。ただし、芸術系のアカデミー (Akademie) 等例外もある。(高等教育法 第1章 § 2 (3))
- 7) 公立は総合大学型のみであったが、2004年に非総合大学型が2校誕生した。
- 8) 職業志向の中等学校は、1～2年制の職業学校 (odborná škola)、2～3年制、及び4年制の中等専門学校 (střední odborná škola) である。
- 9) <http://www.akreditacnikomise.cz/cs/slozeni-akreditacni-komise.html>
- 10) 高等教育法 第3章 § 39 (4) による。
- 11) Ministry of education, youth and sports, *Higher education in the Czech Republic 2008*, Prague, p.39, (2009) .
- 12) この間、公立大学は、24大学から26大学への増加である。
- 13) Ministry of education, youth and sports, *op.cit.*, pp.15-18.
- 14) *Ibid.*, pp.16-17.
- 15) Skuhrová,Š.,Šebková,H.,Záruba,L.,*Higher education in the Czech Republic*, Center for higher education studies, Praha, pp.39-45, (2005) .から算出。
- 16) 石倉瑞恵「チェコ高等教育の国際化 1949-2009 留学生受け入れの軌跡から」、名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要』第56号 (人文・社会編), 173頁, (2010).
- 17) *Ibid.*
- 18) Čechák V, "Vývoj studijních programů na VŠFS", *Vysoká škola finanční a správní, XADONIA* roč.3 č.4, Praha, (2004) .
- 19) Ministry of education, youth and sports, *op.cit.*, p.23.
- 20) 公立大学のプラハ経済大学財務会計学部の学科と比較する。金融保険学科、経済教育学科、企業財務・評価学科、経営簿記学科、通貨理論と政治学科、一般財政学科とあり、その名称からも理論的経済学を専門とすることがわかる。
- 21) 社会主義期、高等教育から職業への継続性が絶たれ、大卒資格は就職において意味をもたなかった。市民革命を経ても、この連関性はあまり回復されていない。
- 22) 一方、私立大学の場合、学生総数に占めるプラハ学生数の割合が高く67%である。公立大学では34%であり、私立大学学生はプラハに集中する傾向にある。(Ministry of education, youth and sports, *op.cit.*, pp.14-18.よ

- り算出。)
- 23) 0～2%程度。留学生の割合が高い10位以内の私立大学は全てプラハにある。
 - 24) Ministry of education, youth and sports, *op.cit.*, p.16.
 - 25) 2005年～2009年の学士課程、修士課程の修了者294名について。(http://new.skoda-auto.com/com/about/perspective/education/pages/university)
 - 26) Ministry of education, youth and sports, *op.cit.*
 - 27) 例えば、クノピツェのヨーロッパ・ポリテクニク・インスティテュートは、クノピツェ市、ホドニン市、クロムニェージュ市がパートナー。
 - 28) http://www.svse.cz/sites/uvod.php?page=ajstud2&navi=navi25
 - 29) *Joint declaration on harmonization of the architecture of the European higher education system*, Paris, (1998) . (Sorbonne Declaration)
 - 30) *Joint declaration of the European Ministers of Education*, Bologna, (1999) . (Bologna Declaration) 具体的な達成指標は、①透明性の高い学士課程、ヨーロッパ共通資格となる学士の導入、②3つの学位サイクル、学部と大学院の2段階課程の確立、③単位互換制度の導入、④教員・学生の流動性の促進、⑤質保証に関するヨーロッパ内の協力促進、⑥欧州の次元の実現の6項目である。
 - 31) *Convention on the recognition of qualifications concerning higher education in the European region*, Lisbon, (1997) . (Lisbon declaration)
 - 32) Ministry of education, youth and sports, *op.cit.*, p.19.
 - 33) *Ibid.*, p.16.
 - 34) Sursock, A. & Smidt, H. *Trends 2010: A decade of change in European Higher Education*, European University Association, p.49, (2010) .
 - 35) ビジネス管理学科長は2001年に修士、2007年に博士取得の「若手」である。
 - 36) 市民的価値(統合、責任、同情、勇気、真実の追求)を備えることが市民の条件。(Anglo-American University, *Ready for global success?*, Prague, p.1, (2009) .)
 - 37) *Ibid.*
 - 38) Anglo-Americká vyoká škola, *Time table Full-time study —Spring 2010, Praha*, (2009) .
 - 39) モーニング・セッションの次は、ミッド・デイ・セッション (11:30-14:15)、アフターヌーン・セッション (14:45-17:30)、イブニング・セッション (18:30-21:15)。金曜日のみがモーニング・セッションで終了する。なお、これはフルタイム・スタディーのスケジュールであり、コンビネーション・スタディー(勤労学生用)のスケジュールには異なったものが用意されている。
 - 40) http://www.aau.edu/schools/section/212/School_of_Journalism
 - 41) http://www.aau.edu/Faculty.aspx?section=41
 - 42) Anglo-American University, *op.cit.*, pp.6-12.
 - 43) http://www.vip-vs.cz/index.php?go=cz&show_cat=25

Abstract

The peculiarity and possibility of private higher education institutions in Czech were considered through the analysis of the process of their formation and development.

First, the definition of private higher education institutions in Czech was analyzed through the amendment process of the 1998 Higher Education Act. They have been accredited mainly as non-university type institutions that provide bachelor studies. They are expected to provide bachelor degrees that will be the common qualification in the European Higher Education Era.

Second, the stabilization process of private higher education institutions was analyzed. The number of their students has been growing rapidly. The majority of the fields that they provide are economics and management, that are oriented as practical. It can be said that they have developed continuation from higher education to career.

Third, the relationship between sponsors and partners and private higher education institutions was

analyzed. The management partners greatly affect the curriculum and programs offering originality, and give their students an opportunity of internship or sometimes job opportunities as regular employees. The partnership between the foreign higher education institutions contributes to realize educational collaborations such as the establishments of joint-courses and joint-degrees.

Finally, the internationality of private higher education institutions is considered. Some institutions have reformed their curricula and programs to realize the European dimension. The curricula are organized to train students as Europeans who have civic values, sense of integrity, and responsibility toward the world. The practical and international oriented programs such as the internship in foreign job places and the degrees system which shows the global quality like foreign degree or MBA are introduced.

It can be concluded that one factor leading to the development of private higher education institutions is the Czech higher education reform aiming at being a member of the European Higher Education Era. Another factor is the existence of various partners who help realize new higher education come true.

